

土木学会

コンサルタント委員会 第20回シンポジウム

2007 四ツ谷キャリアアップフォーラム
for 団塊アクティブシニア
(生涯現役ボランティア)
= (プロフェッション)
× (エンジニアリング・デザイン)

戦略研修	： 藤田 俊英	NPO法人VEEV, コンサルタント委員会委員・幹事
戦術講義	： 米田 雅子	慶応義塾大学理工学部教授, NPO法人PSATS常務理事
	清野 茂次	元当委員会委員長, NPO法人温故創新の会理事長
戦例研修	： 松山まゆ美	株式会社 元気埼玉 代表
	木谷 正道	NPO法人平塚・暮らしと耐震協議会副代表
	野口 稔	「北鎌倉湧水ネットワーク」代表
司 会	： 三浦 裕二	日本大学名誉教授, NPO法人都市環境研究会理事長

平成19年11月13日(火)10:30~17:30

土木学会 講堂

主 催 : 土木学会コンサルタント委員会

目 次

開催要項				2
出演者プロフィール				3
2006年9月 全国大会 当委員会主催研究討論会 座長総括				5
Engineering Design とは by 日下部 治				6
近い将来の土木ソサイエティのあるべき姿 他 by 大野 博久				7
本日のシンポ構成演出の“こだわり”		by VECC小委員会		8
戦略研修 資料 NPO法人VEEV理事長			藤田	9
戦略講義 資料 NPO法人VEEV理事長			藤田	11
資料 慶応義塾大学理工学部教授			米田	13
資料 NPO法人温故創新の会理事長			清野	15
戦例研修 資料 株式会社 元気埼玉 代表			松山	17
資料 NPO法人平塚暮らしと耐震協議会副代表			木谷	19
資料 「北鎌倉湧水ネットワーク」代表			野口	21
MEMO with “Dovolunts” T-shirts				23
“団塊世代を”を照準に熱い議論 土木施工誌 2006. 11				24

コンサルタント委員会は、活動成果を飛躍的に進歩発展させている昨年来の「エンジニアリング・デザイン」に、「プロフェッション」研究小委員会の最新の成果を融合させ、**団塊アクティブシニアに照準を絞った「四ツ谷キャリアアップ・フォーラム」**を開催する。

NHKテレビ、「クローズアップ現代」にも出演された**米田雅子氏**と土木系NPOを立ち上げた**清野茂次氏**の戦術講義に引き続くは、各方面のマスコミで広く紹介されている**松山まゆ美氏**、**木谷正道氏**、**野口稔氏**の、役に立つ戦例研修だ。三氏の先駆的なエンジニアリング・デザイン感性とプロフェッション魂が、土木一辺倒の貴方に、鮮烈な刺激を与える。

2007 四ツ谷キャリアアップ・フォーラム for 団塊アクティブシニア

～（生涯現役ボランティア）

=（プロフェッション）×（エンジニアリング・デザイン）～

- 主 催～土木学会（担当：コンサルタント委員会 VECC小委員会）
- 趣 旨～「コンサルタント委員会が衆目の活動成果を公開、
キャリア・プロフェッションが、土木学会を通じた
ボランティア・スタイルをエンジニアリング・デザイン！」
- 日 時～2007年11月13日（火）10：30～17：30
10：00～10：30まで午前受付&13：00～13：30まで午後受付
- 行事構成～
 - 10:30～12:30 戦略研修：「生涯現役を貫く土木関係者向けNPO法人設立の要点」
藤田 俊英＝コンサルタント委員会委員、NPO法人VEEV理事長
 - 13:30～15:00 戦術講義：「エンジニアリング・デザインがボランティアを先駆ける」
米田 雅子＝慶応大学理工学部教授、NPO法人PSATS常務理事
清野 茂次＝元当委員会委員長、NPO法人温故創新の会理事長
 - 15:30～17:30 戦例研修：「プロフェッション・ボランツの実例スタイルと討論」
三浦 裕二＝日本大学名誉教授、NPO法人都市環境研究会理事長
松山まゆ美＝株式会社 元気埼玉 代表
木谷 正道＝NPO法人平塚・暮らしと耐震協議会副代表
野口 稔＝「北鎌倉湧水ネットワーク」代表
- ご意見など

土木学会のHPにコンサルタント委員会HPを開設しています。当委員会や、本日のシンポジウムのご意見をお願いします。本日はご参加ありがとうございました！！

<http://www.jsce.or.jp/committee/kenc/>

【出演者プロフィール】

◎ 清野 茂次(せいの しげつぐ)

1933年愛媛県生まれ。日本大学工学部土木工学科卒業。(株)オリエンタルコンサルタンツ入社、取締役技術本部長、常務、専務を経て、1986年代表取締役社長、01年代表取締役会長、06年相談役名誉会長。土木学会各種委員会委員、監事、理事、建設コンサルタント委員会委員長等歴任、04年名誉会員。建設コンサルタンツ協会理事、副会長。04・05年日本技術士会会長。63～03年間日本大学理工学部非常勤講師。07年1月NPO法人温故創新の会設立、技術の継承活動開始。著書『PC橋の設計』他、雑誌等論文多数。04年黄綬褒章受章。

URL : <http://www.onkososin.com/>

◎ 三浦 裕二(みうら ゆうじ)

1936年東京生まれ。日本大学理工学部土木工学科卒業。日本道路株式会社、日本大学理工学部交通工学科専任講師、助教授、教授、2002年に名誉教授。1989年からNPO都市環境研究会主宰(会長)、通産省景観材料研究委員会委員長、土木学会広報委員会委員長、同技術功労賞選考委員会委員長、船橋市総合開発計画審議会会長・環境審議会会長、建設省河川舟運に関する検討委員会委員長などを歴任。「地下水ハンドブック：透水性舗装」(建設産業調査会)「運河再興の計画=房総水の回廊構想」(彰国社)、「工学的生物学」(彰国社)、「建設工事の安全管理」(山海堂)など。

<http://www4.ocn.ne.jp/~toshikan/>

◎ 米田 雅子(よねだ まさこ)

1956年山口県生まれ。お茶の水女子大学理学部数学科卒業。東京大学研究員、東京工業大学特任教授を歴任。現在、慶應義塾大学理工学部教授。NPO法人建築技術支援協会常務理事として、熟練技術の伝承に取り組む。内閣府規制改革会議委員、内閣府地域活性化伝道師等も努める。建設産業、国土建設、地方活性化にかかわる研究、提言、支援活動のために全国各地を奔走。著書に『建設業残された選択肢』(同友館)『建設帰農のすすめ』(中央公論社)『退職後NPO』(東洋経済新報社)『団塊新現役時代』『建設業からはじまる地域ビジネス』(ぎょうせい)など多数。

URL:<http://www.psats.or.jp/profile/yoneda.html>

第20回シンポジウム

「2007 四ツ谷キャリアアップフォーラム for 団塊アクティブシニア」

◎ 松山 まゆ美 (松山 まゆ美)

1950年、山口生まれの典型的寅年のB型。結婚を機に上京。夫の転勤で、バンコック暮らしを謳歌後、埼玉生活をスタート。1990年から15年間、第一生命で「保険のおばちゃん」として都内を走り回るが、55歳で突然起業。

パソコンに触ったことも無い、パソコン難民が団塊の世代の応援サイト「元気埼玉」の制作開始。「人生これからがお楽しみ」を合言葉に埼玉から全国の団塊の世代に情報発信する日々です。(株)元気埼玉 代表取締役、NPO法人東上まちづくりフォーラム理事。

URL:<http://www.genki-saitama.com>

◎ 木谷 正道 (きたに まさみち)

1947年神奈川県生まれ。東京大学経済学部卒。71年、東京都庁入庁。企画調整局、調査研究室長、新宿西清掃事務所長、産業政策担当部長、IT推進市長、情報企画担当部長などを経て、07年3月に早期退職。NPO法人平塚・暮らしと耐震協議会副代表(事務局長)、全国市民活動まつり実行委員長。都庁在職中から地元の宅労所で弾き語りを行うなど、まちの音楽家として活躍、本格的なコンサート活動も開始した。

URL:<http://kokorono-uta.net>

◎ 野口 稔 (のぐち みのる)

1948年千葉県生まれ。一橋大学経済学部卒。72年、共同通信社入社。福岡支社、長崎支局、大阪支社経済部、本社経済部などを経て04年7月から本社メディア局編集部担当部長。任意団体・北鎌倉湧水ネットワーク代表。NPO法人『北鎌倉の景観を後世に伝える基金』前理事。鎌倉団塊プロジェクト実行委員会委員。著書に『北鎌倉発 ナショナル・トラストの風』『団塊世代よ、帰りなん、いざ故郷へ!』(いずれも夢工房)。

URL:<http://www.kitakama-yusui.net/>

◎ 藤田 俊英 (ふじた としひで)

1949年大阪府生まれ。名古屋大学大学院土木工学専攻修士課程卒。73年、大成建設入社。本社技術開発部、福岡支店、名古屋支店を経て、東京支店を最後に、2000年6月早期退職し、団塊若隠居生活を送りながら、市民ランナー向け行事を開催する。NPO法人CREW理事長、NPO法人VEEV理事長、鬼あし一門会棟梁、東京ロードランナーズクラブ代表、土木学会コンサルタント委員会VECC小委員長。

URL:http://www.geocities.jp/runners_walkers/

**MI (ミッション・インポシブル) って、
義を見てせざるは勇なきなり、の実践ね!**

技師から義士へ!

退役土木技術者はボランティア・エンジニア

キーワード:

**技師, 義士, 団塊世代, 土木“新”工学
団塊 Civic 方程式:**

① 土木工学 + “新” 土木工学 = Civil Eng.

② 技師 (土木) + 義士 (新・土木)

= 団塊! Civil Engineer

∴ 義士 (= ボランティア = 義勇兵)

= not 「利害を捨てて条理に従い、

人道・公共のためにつくす人」

but 「飯の(義手、義足・・・の)

働きを自発的に実行する人」

前コンサルタント委員会委員長, 東京工業大学 日下部 治

Engineering Design

とは、「必ずしも解が一つでない課題に対して、種々の学問・技術を統合して、実現可能な解を見つけ出していくこと」、

「構想力／問題設定力／種々の学問、技術の総合応用能力／創造力／公衆の健康・安全、文化、経済、環境、倫理等の観点から問題点を認識する能力、およびこれらの問題点等から生じる制約条件下で解を見出す能力／構想したものを図、文章、式、プログラム等で表現する能力／コミュニケーション能力／チームワーク力／継続的に計画し、実施する能力」

が必要である。

これからの社会基盤整備

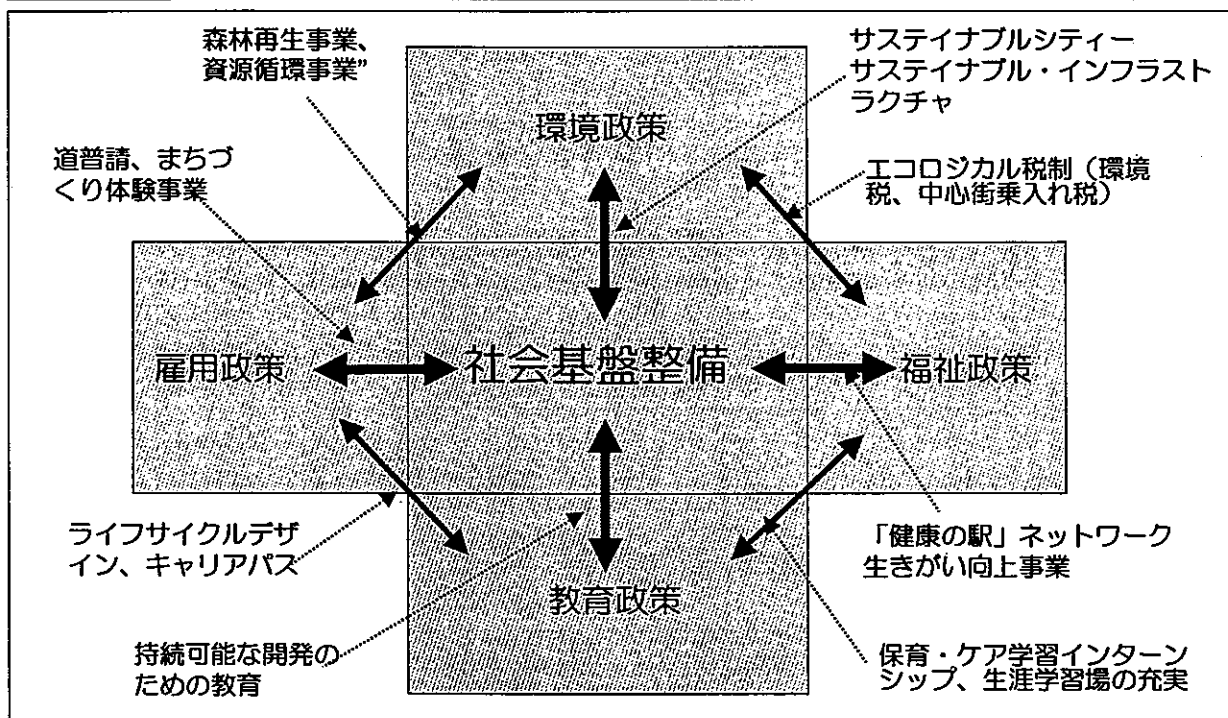
土木学会コンサルタント委員会 第20回シンポジウム

「2007 四ツ谷キャリアアップフォーラム for 団塊アクティブシニア」

当委員会 プロフェッション研究小委員会委員長 大野 博久

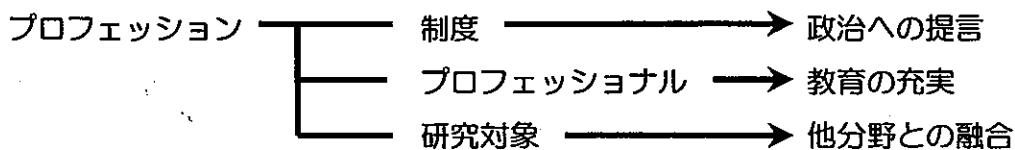
2007年9月 全国大会当委員会研究討論会にて

これからは、意識して文化づくりをめざす。“すべてよし”が基本となる。

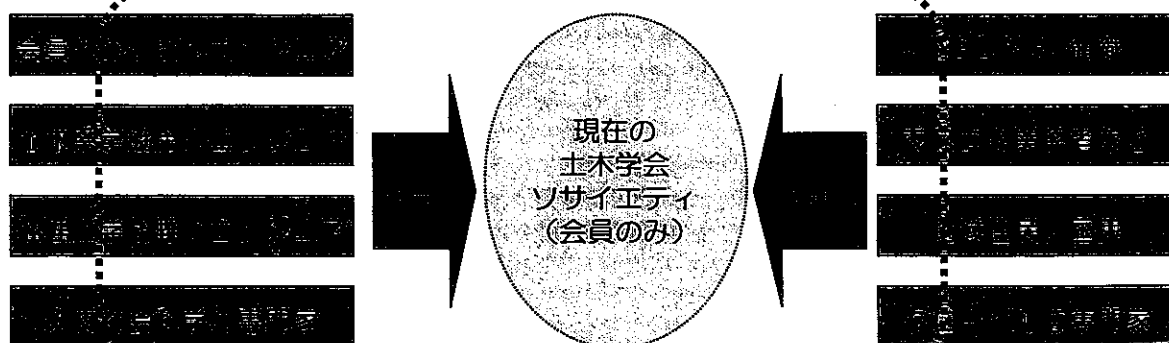


近い将来の土木ソサイエティのあるべき姿

土木学会は、持続可能社会の開発に不可欠な「文化技術」の中核に「土木技術」を位置づけ、リーダーシップを発揮し、社会貢献を通じて国民と他の専門家の信頼を獲得する。この良循環構造を一刻も早く築き、理想像を実現する。



近い将来の土木学会ソサイエティ



本日のシンポ構成演出の“こだわり”
土木技術者から
CIVIL ENGINEERへ!
CIVIL ENGINEER
=ENGINEER of CIVIL
(主演技術者)
(市民が主演するENG.)
(松山、木谷、野口)
+ENGINEER by CIVIL
(助演技術者)
(市民を助演するENG.)
(米田、清野、藤田)
+ENGINEER for CIVIL
(土木技術者)
(行政が税金で雇うENG.)
(会場の参加者一同)

焦らず仲間と夢を実現

土木学会コンサルタント委員会 第20回シンポジウム

「2007 四ツ谷キャリアアップフォーラム for 団塊アクティブシニア」

VEEV=Volunteers for Engineers & Engineers for Volunteers

戦略研修 藤田 俊英

すきま市場で収入確保

60歳からのNPO法人設立

熟年からのNPO設立7カ条	
1 好きなことを事業化する。	好きでないと長続きしない。楽しんでやるのが大事
2 志が同じ仲間を探し、一緒に立ち上げる	大学や会社の同期生など昔の仲間だと甘えが生じる。志は同じだが知らない者同士の方がうまくいく
3 経理や事務に精通した人材を確保する	法人化すると事務作業が大変。経理などが得意な人がいると運営がスムーズ
4 地域のニーズを探れ	地域社会にどんな需要があるかよく調べ、すきま市場を開拓
5 法人立ち上げの前にNPO体験をする	実際に組織に入り、運営の勉強をすることが役に立つ
6 法人化のメリットとデメリットを見極めよ	法人化で社会的信用は得やすくなるが、責任も増す。急いで法人化する必要はない
7 ムリをせずマイペースの運営を心がける	定年後の社会貢献はゆとりを持つことが重要。健康にも留意を



Dankai 日本橋アカデミー

Dankai Nihombashi Academy

団塊世代にエールを送ります

「エンターテインメント」は高度経済成長以降、その市場を縦横に拡充し多様化してきた新しい産業分野です。これらの産業が経済の中核を担うまで発展するには、団塊世代の皆さまの活躍が欠かせません。

各市場において大きな影響力を持つ団塊世代の方々がいニシアチブを発揮されるのは、特に「今まで誰も着目していなかった分野」と「市場全体に循環的波及効果が期待される分野」ではないでしょうか。

事業創造とは「新しいものはないと思われている分野」を新たに切り開くこと。ただし、短期的視点での利益創出目的であれば、結果としてそのパワーは持続しない。企業とは持続的に社会全体の益となる存在になってこそ、その存在意義と経営

の面白さにあふれる、と私は考えます。切り開かれた市場によって生まれた事業益が社会に還元され、新たな雇用を生み、さらには新しい事業のための原資となるよう事業をヨントロールし、直接的にも間接的にも社会に役立つものに育てる。そこに企業経営の醍醐味(だいごみ)があります。

観光エンターテインメントは誰もがその関与者となる可能性のある「新しい市場」です。わが国にはまだまだこうした「誰もがその規模や発展形すら想像できない」分野が多く眠っているのです。



セガミニホールディングス 代表取締役会長兼社長

見 治 氏

顧客に似合う洋服や靴を選び、髪形を整えるスタイリスト。俳優やモデルなど著名人相手の職業という印象が強いが、会社員など個人客向けのサービスが広がっている。買い物に同行して服を見立ててくれたり、希望に沿った服を探して買ってきこられたり。第一印象を変えたいと思っても方法が分からない人、買い物に時間をかけたくない人らの需要を掘り起こしているようだ。

「金色が入ったネクタイなら、流行を押さえてつ好感を持たれやすいです」と。東京都港区の紳士服店「ロゼスト」では元国際線客室乗務員で服装や話術の講義をしているイメージコンサルタントの五十嵐かほるさんが顧客に着こなしの提案をしてくれる。

同店が月額五千二百五十円を支払う会員に提供するサービスの一つ「パーソナルスタイリング」だ。利用のたびにロゼストで買う商品代金の10%を払う。

顧客は五十嵐さんとの個別面接で似合う色などを絞込み、販売員と一緒に店内で洋服を選ぶ。

美容室の紹介や髪形のアドバイスをするレアリゼの三好さん
(東京都渋谷区のPLACE IN THE SUN)



買い物同行・着こなし提案

私専門 スタイリスト

セリュックスのスタイリングサービスは、伊藤美佐希さんら雑誌で活躍する著名スタイリストが買い物に同行し、洋服やアクセサリー選びを手助けしてくれる。「著名人だけののために選んでくれるのが受けている」(同社)という。利用には既存会員の紹介を受け、入会金三十一万円、年会費二万六千二百五十円を払って会員になることが前提。三時間「半日プラン」で五万円、年費二万六千二百五十円を払って会員になることが前提。三時間「半日プラン」で五万円、年費二万六千二百五十円を払って会員になることが前提。三時間「半日プラン」で五万円、年費二万六千二百五十円を払って会員になることが前提。

「印象変えたい」「時間がない」ビジネスマンに人気

主な個人向けスタイリングサービス

事業者	サービス内容	料金
ロゼスト	スタイリストが顧客と面接後に店内の洋服を選んでくれる会員制サービス	月会費5250円のほか、利用ごとに商品代金の10%
LVJグループ「セリュックス」	買い物同行や手持ちの服を整理し組み合わせを助言するなど会員の要望に対応	入会金21万円、年会費2万6250円のほか、利用ごとに別料金
レアリゼ	買い物や美容院への同行、手持ちの服の組み合わせ方のアドバイスなど	買い物同行は90-180分間で1万5750-3万1500円
ファッションレスキュー	カウンセリング、買い物や美容院への同行、洋服の組み合わせ方の助言など	カウンセリングは1万円、買い物同行は60分間で1万円から
ジール	予算に応じてスタイリストが商品を選ぶ買い物代行サービス	商品代金が5万円以下の場合5000円。それ以上は代金の10%

「クールビズ」男性客後押し

個人向けのスタイリングサービスが本格化したのは二〇〇五年ころ。夏の軽装運動「クールビズ」をきっかけに、スーツにネクタイという定番ファッションに頼れなくなった男性会社員を中心に需要が増えている。外見が顧客の第一印象を左右すると説くビジネス書のヒットも、自分に似合う服装を求める男性の増加を後押しする。

事業者選びは注意必要

ロゼストのプレス兼バイヤーを務める五十嵐太一氏は「ファッションに興味を持って情報収集や店を歩き回る時間がないという人が多い」ことを指摘する。サービス料金を支払っても、余分な服を買わずに済めば効果的と考える男性も多い。今後、料金が下がれば、利用者のすそ野はさらに広がろうと見られる。

(消費産業界部 岩本文枝)

新しい、「本物の」 コンサルタントをめざします

戦術講義 藤田 俊英

特別インタビュー



清野茂次

Seino Shigetsugu

㈱オリエンタルコンサルタンツ社長

聞き手 藤田俊英 (シビック・アナリスト)

1933年愛媛県生まれ。日本大学理工学部土木工学科卒業後、オリエンタルコンクリート㈱入社。1958年㈱オリエンタルコンサルタンツ入社。1986年より代表取締役社長。技術士、工学博士(日本大学)。主な著書に「PC橋の設計」(オーム社)、「T桁橋の設計」(オーム社)があるほか、論文多数。土木学会監事・理事を歴任、㈱建設コンサルタンツ協会副会長、その他多くの団体の役職を兼ねる。

市民が主体の街づくり “現場”で土木!ボランティア を展開する

今秋から特定非営利活動法人として事業を開始するビーヴ(VEEV: Volunteers for Engineering & Engineers for Volunteering)の設立準備会を立ち上げた。VEEVの活動目的は、「健体健心にしてエンジニアリング・デザイン能力、個として自立できる度胸さらに退役隠居生活できる経済力を有する土木義士が、広く行政、各種団体や一般市民に対し、若年の土木技師から既成の官製土木市場を取り上げることなく、新たな土木市場を創成し、VEEV事業を展開することにより、快適で、安全で、美しく、楽しく、そして安らぎのある日本の都市を再創造する」である。

・活動の学術的基盤はエンジニアリング・デザイン(=必ずしも解が1つでない課題に対して、種々の学問・技術を統合して、実現可能な解を見つけ出していくこと)であり、「構想力/問題設定力/種々の学問、技術の総合応用能力/創造力/公衆の健康・安全、文化、経済、環境、倫理などの観点から問題点を認識する能力、およびこれらの問題点などから生じる制約条件下で解を見出す能力/構想したものを図、文章、式、プログラムなどで表現する能力/コミュニケーション能力/チームワーク力/継続的に計画し、実施する能力」をもつ土木義士が中心となり、今後の活動を展開する。

上記の活動コピーに賛同する運営会員を募集中! 問合せ: 特定非営利活動法人市民歩行者学会(藤田)
(TEL: 03-5380-8697)。

まちづくり方程式 by VEEV:

1111F (市民工学、団塊世代、土木義士)の楽の美の安
= "DO! Volunteers 2006"
団塊土木義士が都市再創造を先駆ける!!

(NPO 法人 VEEV・設立準備会 コンサルタント委員会委員・幹事 藤田俊英)

VE&EV (ビーヴ) 設立発起人のメンバー募集

特定非営利活動法人 VE&EV (Volunteers for Engineering & Engineers for Volunteering) は、引退した団塊世代の技術者を中心に設立発起人のメンバーを募集している。技術者としての経験と一人ひとりの個性を生かして新たな市場を創成し、快適で、安全で、美しく、楽しく、そして安らぎのある日本の都市を再創造させることを目的に、活動していく。

◎特定非営利活動法人市民歩行者学会(担当: 藤田)

☎03-5380-8697 FAX03-5380-8697

十一月五日午後一時過
ぎ、イーストリバーを跨ぐ
クイーンズボロ大橋の下段
車道を渡り終え、人間大河
と化したマンハッタンの一
番街の大声援を浴びる。

十一月二十七日午後五
時、秋葉原駅に近いビル
の三階で開催される『都市環
境研究会』の十一月例会に
三万人以上のランナーが二
階で開催される『都市環
境研究会』の十一月例会に
観客が護岸を望する、そん
な光景がコース四二〇を彩
る。

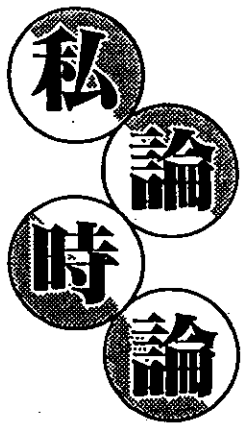
三浦裕二教授から依頼を
受けて、『コロラド州ポー
ルト市』の走りたくなる河
川整備他、尚子とシモンの
高地トレーニングを支えた
もの』なる演題の講師を演
じる。会費制の集まりに何
人参加されるかと気にかか
りますが、準備されたいす
がほほ埋まる顔ぶれを確認
して気が入ります。

用意したOHP四十五枚
を順番に写しながら、都市
ランニング環境整備の最新
事例を紹介する。日本の事
例は、都下東久留米市の黒
目川のジョギング・ウォー
キング歩道、静岡大井川河
川敷マラソンコース、荒川
マラソンの話題だ。話すに
つれて、ニューヨークの都
市景観に見事に調和した鉄
製の百年橋梁を駆け渡った
交差とかで、走りたくなる
感動が蘇り、声が大きくな

を順番に写しながら、都市
ランニング環境整備の最新
事例を紹介する。日本の事
例は、都下東久留米市の黒
目川のジョギング・ウォー
キング歩道、静岡大井川河
川敷マラソンコース、荒川
マラソンの話題だ。話すに
つれて、ニューヨークの都
市景観に見事に調和した鉄
製の百年橋梁を駆け渡った
交差とかで、走りたくなる
感動が蘇り、声が大きくな

NYCマラソン、人間大河に 300万人観衆が多自然型護岸

トレンド・アナリスト 藤田 俊英



米国のハードな事例に、
オレゴン州ポートランド市
の岸壁プロムナードとコロ
ラド州ボルダークリークの
専用トレイルを選ぶ。水
面に近く波音が聞こえ、車
道とはすべて立体交差の整
備ポリンシーが、走りたくな
る河川整備の原点と伝え

[投稿]

“走りたくなる街”の 土木インフラ

海外の各種ランニング大会に参加して

藤田俊英

Toshihide FUJITA

正会員 建設評論家・トレンドアナリスト

第六幕 士道に殉じた義勇コンサルタント
土方歳三
①

(1835~1869年)

多くの中小零細建設業が多額の債務を抱え、経営に窮している。
そんな崖っぷちの経営者を救うコンサルタントが再生請負人だ！
頃は幕末、武州三多摩は日野に生まれた歳三は新選組副長となり、
瀕死の徳川幕府を救うソリューションを執刀した。

米国コロラド州のボルダー市はシトニー五輪の女子マ
ラソン金メダルに輝いた高橋尚子さんが高地トレ
ニングの拠点にした美しい大谷街である。世界の一流アスリ
ターたちが「走りたくなる街」と称賛するボルダー、
「boulder」をば、主石とか丸石の意味である。自然石を
巧みに用いた河川整備が施されたクリークに沿って専用歩道
を、市民の老若男女が多種多様なロードスポーツを楽し
む。市民スポーツと土木インフラの融合がある。
この2年間、米国のポートランド、ボルダー、ニュ
ーヨークと豪州のバースを訪れて、各種ランニング大会に参
加した。ランナーの視点で、土木構造美がふんだんに目
の前に現れる海外のランニング大会を紹介する。

コンサルタント列伝 第16回 ～不滅のソリューション・ビジネス～

藤田俊英



「2007 四ツ谷キャリアアップフォーラム for 団塊アクティブシニア」

■編者／米田雅子

■出版社／東洋経済新報社

■B5版・230頁＝1,600円＋税

戦術講義 米田 雅子

豊富なキャリアを持った人々がどンドンリタイアしている。60歳で定年になった会社人間が職を離れた後の寂寥感は、誰しものが通る道であっても耐えがたいものがある。

退職者は孤独である。しかし、活躍の場を与えられれば猛然と培った力を発揮する。

本書は声がかかるのを待つのではなく、NPOで自ら活動の場を積極的に作り出そうとする人々にとって具体的な指針となるであろう。

まず、はじめにNPOはボランティアではないと、真のNPOのポジションを明確に示し、続いて外国の事例を含め様々なNPOの姿を紹介している。

中間ではサーズの事例を基に具体的な活動を紹介し、我々の身近な会員の方々の大活躍ぶりが活写されている。此処でなるほどと納得して自分にも出来そうなNPOの活動が理解できるようになっている。

また、インターネットを活用した新しい活動の広がりを提案し、巻末にはサーズの事例により詳しく具体的な申請書類一式が提示されて、これを参考にして書類作成が出来るようになっている。

そして、この本のユニークな点は、いろいろなNPOの事例を6名の夫々の代表の方から「先輩からひと言」と題して設立の経緯や様々な形と活動を語っていただいていることで、多岐にわたるNPOの姿を具体的にイメージ出来るようにしていることである。

この本は米田雅子常務理事がサーズ運営3年の実績の上に書かれた実務書であり、退職後の方々が元気になる啓蒙の書である。(阿部市郎)

◆こんな活動をしてきました◆

○建設産業、国土建設、地方活性化に関わる研究・評論・支援活動を、全国各地をまわり、現地調査や講演を行いながら続けてきました。(参考 [毎日新聞記事\(PDF\)](#))

講演実績：全国44都道府県で、平成15年53回、平成16年69回、平成17年72回講演を行いました。
主なテーマ「建設業と農林水産業で地方復活」「建設業の新分野進出」「異業種からの農業参入」「建設業の変革と新しい方向」「団塊新現役世代 NPOに生きる」等

○東京工業大学統合研究院では、「地震に強い持続可能な都市と国」の実現のために、大都市集中の弊害を是正する観点から、地方活性化に取り組みました。

○慶応義塾大学では、「公共政策の科学」を担当しています

○規制改革会議では、全国から規制改革要望を集める担当と地域活性化に取り組んでいます。

6月(あじさい)、11月(もみじ)に全国から規制改革への要望を集中受付しています。

5月と10月は全国キャラバンで各地をまわり相談を受け付けています

<http://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/accept/index.html>

(参考 [新潟日報記事\(PDF\)](#))

○平成19年6月に内閣総理大臣から再チャレンジ支援功労者表彰をいただきました。建設トップランナーフォーラムを高く評価して頂きました。

<http://www.kantei.go.jp/jp/saityarenzi/hyoushou.html>

(参考 [再チャレンジ表彰パンフレット米田紹介\(PDF\)](#) [受賞式風景\(JPG\)](#))

(参考 [平成19年7月建設トップランナーフォーラム開催 公明新聞記事\(PDF\)](#))

地域発 建設トップランナーフォーラム

「HOME」が「地域発」の「建設」×「メール配信」で「今までの」建設「トップランナー」

「建設トップランナーフォーラム」とは

建設業のおかれた厳しい状況と戦いながら、夢をもって新事業へと邁進する建設経営者たちとその支援者の集まりです。建設会社が地域ビジネスを興しながら、同時に社会基盤を担うことが地域再生につながると信じて頑張っています。

年に一度の全体会、テーマ別の分科会による研修活動、メール通信やホームページを利用した情報交換などを行い、新しい発見と出会い、多様なつながりを構築します。

→建設トップランナーフォーラム概要

→代表幹事のご挨拶

東京工業大学 統合研究院 教授 和田 章・日本青年会議所 19年建設部会長 田中勝久

5つの分科会のご案内

- アグリビジネス分科会
- 環境ビジネス分科会
- 地域づくり分科会
- 森林再生分科会
- 新しい発想ビジネス分科会

フォーラム開催記録

- 全国ワークショップ「持続可能な社会基盤と地方活性化」(2006年7月27日、28日)
-地域発 建設トップランナーフォーラム-
→プログラムと開催結果報告 (PDF)
→開催の様子 (PDF)
→実施報告書(分科会議事録、アンケート、調査含む 72頁(PDF))
- 国交省・建設技術フェアへ出展しました

活動スケジュール

2006年12月1日	ぎょうせいから「建設からはじまる地域ビジネス」(PDF) 出版
12月5日	建設トップランナーフォーラム発足(PDF) (東京 KKRホテル)
2007年1月19日	アグリビジネス分科会 開催 (東京 建築会館)
1月26日	地域づくり分科会+新しい発想ビジネス分科会 合同開催 (札幌市)
2月 2日	環境ビジネス分科会+森林再生分科会 合同開催 (中部地方)
7月26日-27日	全体会として第2回建設トップランナーフォーラムを開催 (品川区田町)

催し物などの情報をメール配信しています

お問い合わせは info@kentop.org

ホームページ <http://www.kentop.org/>

〒113-0033 東京都文京区本郷6-25-14 宗文館ビル3階

NPO法人 建築技術支援協会 気付

建設トップランナーフォーラム

事務局担当 大里茂登子 (建築技術支援協会) TEL: 03-5689-2911 FAX: 03-5689-2912

戦術講義 清野 茂次

日刊建設産業新聞 平成19年6月14日

知識、技術を次世代へ伝承

人づくり、まちづくり寄与 コンサルOB中核に活動

NPO法人「温故創新の会」(理事長・清野茂次)が、今年度から活動を本格展開する。社会基盤整備分野を中心に、建設コンサルOBが中核となり、自ら保有する知識・技術ノウハウを次世代に継承・助言・普及することなどを通じて、人づくり、まちづくり、環境保全などに寄与していく。



清野理事長

NPO温故創新の会

温故創新の会は、昨年8月に設立総会を開催、今年1月にNPO法人となった。5月には通称総会を開催して07年度事業計画などを承認、今年度から活動を本格展開する。現在、建設コンサルOBの26人が参加している。

取り組みの内容は、「道路」「土質および基礎」「橋梁・構造」「トンネル・地下空間」「品質・プロフェッション」の5つの部会を設置、各部会を通じて交通費、資

料代などの実費で様々なサービスをを行う。道路部会は、高速道路の計画・設計の基本として、線形計画およびコントロールポイント、パークینگエリア併設のインターチェンジ、広域幹線道路としての路線検討、道路の整備効果と必要性、道路建設のコスト削減、海外における調査・計画・施工管理の要点、土質及び基礎部会では、土質調査計画のあり方、土質技術者の立場や倫理観、土質調査計画の必要性と具体的な計測手法、土質調査の方法として、既往資料の収集と活用方法、地形・地質と地域特性、土質調査の種類とチェックリスト、

環境対策上の調査方法(土壌汚染分析、振動測定等)、土質データの解釈・評価、管理、活用の方法、土の分類と表現方法、土の物理的性質と力学的性質、柱状図の見方、電子データのデータベースと有効活用。基礎の設計・施工法として、土質調査結果に基づいた設計・施工への提言、地盤の支持力と沈下の計算方法、地盤改良工法などに関する比較設計の方法、動態観測施工のあり方。

橋梁・構造部会では、構造物設計論(含む名神・東名時代の構造物設計の考え方)、道路・鉄道等の整備に必要な構造物の計画・設計・施工管理に関する技術、道路橋・鉄道橋の改修、架け替えの計画・設計、施工に関する技術、要緊技術として、各種橋梁形式の特性と設計技術、橋梁震害検討(限界状態設計法)に関する基本(含む歴史と現状)。トンネル・地下空間部会は、都市問題と地球環

境問題、都市交通と地下利用、安全・防災と地下利用、環境と地下空間利用、とくに都市景観との関係、地下利用と法律、空中・大深度地下、市民参加・市民合意形成など。

品質・プロフェッション部会では、技術成果の質について、ミス防止と品質向上、設計審査の適用、技術者の質について、コンサルOB論、技術者倫理、プロフェッション考、若手技術者の早期育成となっている。

清野理事長は「OBがこれまでの業務経験を話すことなどにより、若い技術者に技術が伝承され、技術力の一層のレベルアップにつなげていきたい」としている。

なお、同会では、建設コンサルOBを問わず会員、賛助会員を募集している。ホームページは<http://www.wankobkenkoku.com/>から申込みが可能。

論説委員会の頁

「武士道」に学ぶ技術者の倫理規範

清野茂次
SEINO Shigetsugu

論説委員

オリエンタルコンサルタンツ相談役名誉会長



日本人が持っていた、高貴な精神文化を世界に紹介したのは、新渡戸稲造の名著「武士道」である。この著書は1899年(明治32年)、米国のフィラデルフィアで出版され、ほどなく日本語は当然のこと、主要各国語に翻訳されて、広く世界で愛読された。「武士道」の執筆をさかのぼること約10年、新渡戸がベルギーの著名な法学者ド・ラヴレー氏宅に滞在中、2人の会話の中で「日本の学校教育で、宗教教育なしで、どうやって子供に道德教育を授けるのか。」と問われた。しかし、新渡戸は答えることができなかった。

その後、新渡戸は熟慮分析の結果、自分の道德意識は学校教育でなく、武士道によって育てられたことに気付いた。更に研究を重ね、キリスト教文化や西欧の歴史・文学とも対比した。新渡戸は内村鑑三との交親が厚く、熱心なクリスチャンでもあり、より客観的な観察をしている。武士道は日本の土壌・風土・文化に根ざし、何百年にも渉ってはぐくまれ、有機的に育った精神文化で、西洋の騎士道とは異なるものであると判断した。そのため著書の表題を日本語のまま「BUSHIDO」としたことに、大きな特徴がある。また、「武士道は道德史の上で、大英帝国の憲法がイギリスの政治史上で占めた地位と同じ地位を占めるものである。」といい、高い評価を受けた。

武士道の根源は、孔子、孟子、王陽明の教えにあり、また仏教、神学、儒教などと深くつながりを持っている。ここではその主要な教えのみを略記する。

「義」とは「人の正路なり」と言われ、人の道として「正しいこと」を言う。人間の社会には法律をこえた「正義の道理」すなわち節義、義理が存在する。義理は人間がつくりあげた社会的約束事でもある。

「勇」とは「義を見てせざるは勇なきなり」と論語にあるとおり「正しいことをすること」である。勇は義と並ぶ武士道の双生児であって、義の心があっても勇気をもって行動しなければ事をなし得ない。真の勇気は大義の勇、平静さに裏打された勇気をいう。

「仁」とは愛、寛容、憐憫の情などであり、人の上に立つ者の必須条件である。義を男性的であるとするならば、仁は女性的な優しさで諭す力を備えている。特に権力をもつ者、強い立場の者は他者への惻隱の情と謙虚さを忘れてはならない。

「礼」とは他人に対する思いやりの心を目に見える形で表現することである。日本人は礼儀作法について厳しく躰をする。礼儀は慈愛と謙遜という動機から生じ、他人に対する優

しい気持、そして優美な感受性として表われる。

「誠」とは「武士に二言なし」と言われるとおり、嘘をつかないこと、二枚舌であってはならないことである。真のサムライは「誠」に高い敬意を払うものであり、社会的地位の高い者にはより厳しい誠が求められる。

「名誉」は生れた門閥にあるのではなく、人は誰でも各自が生れながらにして貴きものを保有している。日本人が持つ恥の文化は人間の道德意識の出発点であり、忍耐と寛容と努力があって名誉につながる。と述べている。

以上の他、多くの学ぶべき記述があり、これらを着実に自己のものにし、一つひとつ実践することで、人間としてまた技術者としての倫理規範につながる。

土木学会を始めとして、多くの学協会が技術者の倫理規定を策定している。また、欧米の団体でも同類の規定が定められている。当然、行動規範としての規定やマニュアルは必要であるが、倫理は本来、人が幼少より身につけて成長し、守るべき人の道、道德規範である。したがって、技術者はマニュアル類を理解していればよい、といった単純なものではない。そのことを十分に理解して、日々対応することが大切である。

特に土木技術者は有史以来、公共事業を中心にして、人間生活に必要なインフラ整備に関わり、公共の安全と環境の保全、国民の福祉のために貢献する責務を負ってきた。まさに、武士道の中でも述べているノーブル・オブリジェ(高い立場に立つ者はそれ相応の責任を負う)であり、土木技術者には立場と役割に応じた品格が求められている。我々の大先輩、青山士は「技術は人なり」の信念を貫き「人類ノ為メ、国ノ為メ」に生き、八田興一は今でも「台湾の農業の父」として畏敬されている。他にも偉大な先輩は多くいるが、まさに武士道の精神で生き、社会に貢献した土木技術者の代表と言える。

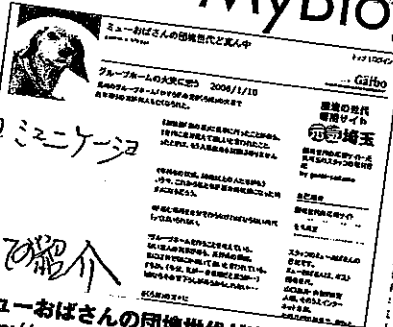
明治維新後の土木技術者は、官僚技術者を中心にして近年に至っている。戦後は社会システムの変遷と国際化にともない、民間の土木技術者が数多くなり、それぞれが重要な役割を担って活躍している。一方我々の技術者社会は歴史的な伝統もあり、発注者と受注者というタテ関係が結ばれてきた。一人ひとりとは善良な技術者であっても、組織や集団になると様々な問題を醸し出している。今ここで、産官学の土木技術者全員が原点に立ち戻り、温故知新、「武士道」と大先輩の生き方に学び、本来の日本人の心(DNA)を再生させ、一人ひとりが矜持を高め、自信を持って社会に貢献していかなければならない。

5分
愉快なおとなの
ブログライフ!

戦例研修 松山まゆ美

おとな愉快団(アソビコミュニケーションズ)の雑誌
これはブログ名人として紹介

MyBlog.



ミュージーおばさんの団塊世代と真ん中
<http://genkis.exblog.jp/>

団塊世代を応援する情報サイト「元気埼玉」内の社長日記を担当。取材のこぼれ話からプライベートネタまで、読む人に元気をくれる軽快でパワフルな文章が魅力。「分かんソ」を読者に投げかけて皆で解決するのもここならではの。



ブログ更新は朝日時半ごろ。出社してから前日のものを置く。時には取材のメモ代わりにお礼状代わりに活用している

ブログを始めて出歩くことがもつと増えた人と出会い、経験を積んで、楽しみを分ける生活がいまいきいきして毎日がとてもハッピー

だいた男性はなおお。サイトを通じて、同世代の仲間がイキイキ暮らせる情報を伝えるのが私の使命。将来は各地に特派員を置いて皆でサポートができればいいな。

埼玉には40万人の団塊世代がいると言われる。「団塊世代でくっついてはく、個々

が個性を出し始めた世代。彼らには生涯現役で楽しく生きよう！友達たくさん作るうーって声を大にして言いたい。ブログは自己表現の便利な道具。友達もたくさんできる。自己表現で勇気がいるけど、共感してもらった時の喜びは最高よ！」

インタビュー後記

そばにしていると
元気が伝染!
明るくてパワフルな姿に
団塊世代の真の強さを実感

失礼かもしれないが、年齢を感じさせない雰囲気。一目会った瞬間から好感を抱いた。ひとことと言えば「ひまわりのような人」。とにかく明るい。質問ひとつひとつに目をきらきら輝かせて答えてくれる。しかし、社長という肩書き上、サイト運営の悩みは尽きないという。それでも悩みを笑い飛ばして語ってくれるその姿に「肝っ玉かあさん」の真像を感じた。また、自らサイトの企画を立て、アポ・取材とこなすことから、この取材の質問意図をすぐ把握してくれたのもうれしい。こんな人に取材されたら何でも話しちゃうんだろうなあ。同業者として得るものが多い取材だった。



兼詰まった時には大好きなコーヒーで気分転換。仲間や友人と笑いあえばストレスも解消!

の思いから、定年後は「第二の人生」ではなく、「新たな人生」と見ている人が多いようです。私が子育てを終え、自分の分かつ分野で起業したいと考えていた「く」を立ち上げたサイト「場所」いじりを楽しんだ。ITに不慣れな自分だからといって、使い勝手が良くて「欲しかったんだ」と思っても、情報の掲載したサイトを制作するのことがあったら、95年夏、団塊の世代の応援サイト「元気埼玉」(<http://www.genki-sa-itama.com>)を作り出した。旅行やハイキングなどの「楽しむ」、技術を生かしてNPOやボランティアに参加する「仲間づくり」、仕事探や起業のための「働く」など、地域に根ざした多彩な情報が好評で、ヒット数は月10万件を超えます。

サイト上でも特徴は出ます。興味・感性で動く女性に対し、男性は「いじり」を楽しむ。肩の力が抜けていないようです。新しい人は競争を嫌って来ない時代です。寛容でやさしい時代です。そんな方が役立つ情報はいろいろな所にあふれています。



愉快のおとなレポート



団塊世代専門サイト「元気埼玉」の社長、人と話したり出かけるのが大好きな典型的な団塊人間。

「インターネットの中心地が埼玉のふもと、埼玉の団塊世代の仲間と情報交換をしよう、楽しく元気に生きていこう」という思いから「元気埼玉」のホームページが生まれた。

生涯現役宣言！人も地域も元気になろう

インターネットの知識がなくなってきた、持前の負けん気と好奇心で毎日自分で更新しています。

埼玉を愛する団塊世代で作った情報サイト「元気埼玉」。その中で社長日記ブログを展

開いているのが、メンバーお披露目として松山まゆ美さん。もともとインターネットへの知識は

「分かんない、あら面白い、助けてと迷惑をかけながら、なんか自分で更新できるようにまでなった」。2005年6月から、更新はほぼ毎日続いている。「取材で会った人の印象や、道路に咲いた花とか小さな幸せを話したくて、全然話題が尽きないの」。もちろん気分が乗らないときもある。「更新が遅れると、具合が悪いの、すか？」でメールがくるの。全国から励まされると休んでられないから(笑)。

3つのコツ

1. いつもアンテナをはりめぐらしておもしろいネタを敏感にキャッチ!
2. 好奇心と行動力は人生を楽しむ最高のエネルギー
3. みんなのブログにどんどん飛んでいって仲間をたくさん作ろう



デジカメは仕事でもプライベートでも必ず持ち歩く。取材に行くときは手帳、レコーダーと、サイトをより知ってもらうための営業用パンフレットも必須だ

メールにありました、メディアに掲載された記事をお送りいたします。サイズ丁度なかったものから、切り取って使っていただければ幸いです。

それでは、楽しく元気のある会になりますように!

同世代の応援サイト開設

東京から大井町(現ふじみ野市)に移り住んだのは1994年。都内の地価はまた高く夫婦の通勤、子供の通学を考慮して選んだのが、自宅一最寄り駅のみが「埼玉」の典型でした。生保レディーをしていた松山まゆ美さんが、バブル経済の崩壊後、50歳を過ぎて解約する契約者が増え、笑って「今までの一生懸命、何をやっていったんだろう」と悔しい気持ちになりました。団塊の世代とその前後は、学生運動、高度経済成長期、バブルの発生と崩壊、と流れに乗って生きてきたけれど、流れに乗り遅れ、不安を感じ始めた「と願います」。



団塊の世代の応援サイト「元気埼玉」を運営する松山まゆ美さん

読売新聞(埼玉版)
2007/1/11

戦例研修 野口 稔



北鎌倉湧水ネットワークが企画・協力して誕生した地ビール「北鎌倉の恵み」の試飲会

活動内容は
ここで
CHECK

第1章

地ビール「北鎌倉の恵み」のために立ち上げられたNPO「北鎌倉湧水ネットワーク」のブログ。活動の原点である北鎌倉の景観保護のためのナショナル・トラスト運動や野口さんが中心になって実施している「団塊サミット」、行政と市民団体の共同事業「鎌倉団塊プロジェクト」の情報も満載

北鎌倉湧水ネットワーク

<http://kitakamayu.exblog.jp/>



「団塊世代の生き残り戦略」

そんな野口さんが、活動を支える武器として活用しているのがインターネット。注目したのも早い時期だったはずと自負しています。「ホームページやメールは個人がマスに対して初めて発信できるツールだと、1995年

野口さんが今、最も力を入れてるのが「団塊サミット」とそのコンセプトの実践。いわゆる団塊世代の人々の知識と経験を生かし、新たな「地域活動」をしているうちに、今まで会社で培ってきた

野口さんが今、最も力を入れてるのが「団塊サミット」とそのコンセプトの実践。いわゆる団塊世代の人々の知識と経験を生かし、新たな「地域活動」をしているうちに、今まで会社で培ってきた

のインターネット元年の時にその思った。トラスト運動をどう広げるかという時にも、ネットを徹底的に活用するしかないと思っていたんです。ただし自分はシステム音痴

野口さんが今、最も力を入れてるのが「団塊サミット」とそのコンセプトの実践。いわゆる団塊世代の人々の知識と経験を生かし、新たな「地域活動」をしているうちに、今まで会社で培ってきた

野口さんが今、最も力を入れてるのが「団塊サミット」とそのコンセプトの実践。いわゆる団塊世代の人々の知識と経験を生かし、新たな「地域活動」をしているうちに、今まで会社で培ってきた

野口さんの提唱で始まった「団塊サミット」も今年の12月で第3回を数え、ここで新たな広がりを見せようとしています。鎌倉市が市民団体と協働して「2007年問題」に対応しようという「鎌倉団塊プロジェクト」がスタート。そこ野口さんも参画するようになっていきます。市民団体と行政が「協働」して、定年を

野口さんが今、最も力を入れてるのが「団塊サミット」とそのコンセプトの実践。いわゆる団塊世代の人々の知識と経験を生かし、新たな「地域活動」をしているうちに、今まで会社で培ってきた

野口さんが今、最も力を入れてるのが「団塊サミット」とそのコンセプトの実践。いわゆる団塊世代の人々の知識と経験を生かし、新たな「地域活動」をしているうちに、今まで会社で培ってきた

野口さんが今、最も力を入れてるのが「団塊サミット」とそのコンセプトの実践。いわゆる団塊世代の人々の知識と経験を生かし、新たな「地域活動」をしているうちに、今まで会社で培ってきた

「団塊サミット」

「団塊サミット」も今年の12月で第3回を数え、ここで新たな広がりを見せようとしています。鎌倉市が市民団体と協働して「2007年問題」に対応しようという「鎌倉団塊プロジェクト」がスタート。そこ野口さんも参画するようになっていきます。市民団体と行政が「協働」して、定年を

野口さんが今、最も力を入れてるのが「団塊サミット」とそのコンセプトの実践。いわゆる団塊世代の人々の知識と経験を生かし、新たな「地域活動」をしているうちに、今まで会社で培ってきた

もう一つはIT出版社・インプレスジャパンの「NPO入門 世の中に貢献するという生き方がある。」(2006年7月2日発行)です。こちらも2ページ特集です。

●野口さんが語る
団塊のNPO参加**3**つのコツ

- 1 会社で培ったノウハウを地域に活かそう
- 2 自分の常識は他人の非常識と知ろう
- 3 地域に流れる時間に自分を合わせよう

11 市庁舎快脚 NPO入門



団塊世代 第2ステージへ

●第1章

われらの愉快なNPOライフ

FILE 1

北鎌倉に助けられている
だから私たちの手で守りたい

北鎌倉湧水ネットワーク

野口稔さん



北鎌倉駅

「北鎌倉湧水ネットワーク」代表 野口稔さん

横浜に15年住んだ後、10年前より北鎌倉に居を移し、この地の自然環境を守るナショナルトラスト運動に参加。その中でNPO「北鎌倉湧水ネットワーク」代表として地ビール「北鎌倉の恵み」を発売。そんな人となりのなかから「団塊世代」を提唱。さらに行政と市民団体が協働する画期的な取り組みで、「2007年問題」に対応する「鎌倉団塊プロジェクト」にも積極的に参加している。

「NPO」北鎌倉湧水ネットワーク「代表の野口さんがこの土地にお住りになったのは、今から10年前のこと。地域活動への参加は、自宅の隣接地域に

宅地造成計画があると隣人に相談され、景観保全のために乗り出したのが発端です。「北鎌倉で土に触れたり、山を登ったりすると身体がスッ

とてくる。「この土地に助けられている気がしています。それが台無しになるのはイヤだな」と思っていました」

そのうちその活動は、北鎌倉全体の景観を守る「ナショナルトラスト運動」に発展。その資金集めの一環として、野口さんが提案したのが地ビールづくりにした。

「横浜の地ビール屋さんから、北鎌倉は湧水も出ますと提案があった。湧水が出るというところは自然の恵みがあるところなんです。ただ事情があったので、新たにNPOを立ち上げました」

神奈川新聞



あいなじる野口稔さん

青木 健一 主あい

団塊世代の活性化に力を

「北鎌倉湧水ネットワーク」の野口代表は昭和二十二年から二十四年頃に生まれた世代で、赤ちゃんの数が三年間、八百万人。この世代が多めに定年を迎えます。人数が多いだけに定年退職後の行動は、日本の消費構造や社会に大きな影響を与えます。私たちが自身で、これがどうなるかが大切ではないかと思えます。本日は、自分らしい生き方、自分の真の居場所について考えてみたいと思います。団塊世代は、日本の高度経済成長に中核的な役割を果たしてきました。しかし、いま私たちは、地方の過疎・高齢化と、都会の過密・孤独化と、私は「セカンドライフ」の仕事を通じてつちかっていたのが、ふるさとへの帰郷を促すために使ったのが、この「北鎌倉の恵み」です。この場合の「恵み」は、第二のふるさと、お気に入りの地域を含め、ふるさとに「ごわい」を取り戻す「コミュニケーション」の復活、人間としての本来のコミュニケーションの回復、と思っています。

地ビール「北鎌倉の恵み」

活動内容はここでCHECK

「北鎌倉湧水ネットワーク」が、業者と連携して岩瀬地区の湧水で作った地ビール。「NPOと企業の協働で実施され、社会にインパクトを与えた特色ある事業」に贈られる第3回「パートナーシップ大賞」にもノミネート、入賞。売り上げの一部は、北鎌倉の自然環境保全・景観保全に使用。



2006年(平成18年)8月5日 土曜日

宅老所で弾き語り5年

歌は地域との架け橋

住んでいる地域に、自分はいったい何ができるだろう。都庁総務局の局長担当部長・木谷正道さん(58)は、そんな思いを胸に、神奈川県平塚市の自宅近くにある宅老所でギターを抱えて歌う活動を続けている。4月には新宿で「心の唄へ希望へ」と題するコンサートを開いた。役所人間で近隣とのかわりがなかった木谷さんに、地域の大切さを気づかせてくれた人々への感謝の思いを込めた。

(江川慎太郎)

都庁の「喜び教えてくれた」木谷さん



ギターを抱えて歌う木谷正道さん(撮影・吉田裕氏)

木谷さんは5年前、自宅から3分のところに来てきた宅老所を訪れた。民家を改修した小さなデイセンター。「国民営で行政からの補助金はゼロ。雇用も生まれ、通所者やワーカーの満足度は極めて高い。地域の力が支えているんだ」と心を動かされた。

木谷さんの弾き語りが上手なことを知った宅老所の代表から頼まれ、週末になるとお年寄りたちと一緒に歌うようになった。

ギターは学生時代から弾き始めた。同じ団塊世代

代の谷村新司や、少し若いさだまさしの曲が好きだった。宅老所で披露するのは、唱歌や懐メロといったお年寄りが歌いやすい曲をはじめ、自分の世代の歌や最近のヒット曲と様々だ。

でも、いつも最初と最後に歌う曲は決まっていた。多くの歌手がレパトリーにしている「花すべての人の心に花を」だ。一緒に口ずさむお年寄りたちの楽しい表情が、木谷さんの心に深く刻まれていく。

歌を聴いてくれたり、一緒に歌ってくれたりした人々からは、「歌うことで寿命が延びた」「生きていく元気が出た」「楽しいね」という言葉が返ってくる。「私も心が安らぎ」とて

も楽しい気持ちになりました」と木谷さん。今も月に3、4回、ギターを抱えて福祉施設に向かう。思えば、子どもが生まれた頃から仕事人間になった。「障害物競走みたいな仕事の仕方でした」。そんな木谷さんが地域に目を向け始めたのは、10年ほど前からだった。

新宿西橋筋事務所勤務していたときのこと。事業系ごみの有料化に取り組み中で、早稲田大学周辺の商店会でパワフルな人々に出会った。

商店街の進める街づくりやホームページ作成、環境学習講座といった地域活動を通して、「役所は人間が作った道具にすぎない。主人公は地域、そして住民なんだ」と気がつく。「私の頭の中の『行政主導主義』が薄らいでいきました」

4月のコンサートには、これまで様々な場面で出会った人々を中心に約200人が集まって

団塊はいま

老若男女の初心者に優しい六路盤が登場

「あんなにやさしい六路盤は見たことがない。初心者や子供でも、簡単に遊べる。しかも、面白い。これは、本当にいい。六路盤は、本当にいい。六路盤は、本当にいい。六路盤は、本当にいい。」

（まろの音楽家・木谷 正博）



ワイド版

■06年11月28日
川中川遊楽園

「遊園地に来たけど、遊具も少なくて、面白くない。でも、この六路盤は、本当にいい。六路盤は、本当にいい。六路盤は、本当にいい。」

■06年11月30日
川中川遊楽園

「六路盤は、本当にいい。六路盤は、本当にいい。六路盤は、本当にいい。六路盤は、本当にいい。六路盤は、本当にいい。」

平塚から始まる

新たな暮の世界

「新しい暮らし、新しい暮の世界。これは、本当にいい。六路盤は、本当にいい。六路盤は、本当にいい。六路盤は、本当にいい。」

おらが山里 ネットワーク 富士見でフォーラム

「おらが山里」の住民グループ「おらが山里ネットワーク」の代表者は、27日、「おらが山里」の中心地である富士見町で、住民の声を聴く。参加者は約30人が参加。おらが山里の中心地である富士見町で、住民の声を聴く。参加者は約30人が参加。おらが山里の中心地である富士見町で、住民の声を聴く。参加者は約30人が参加。」

（川中川）



「おらが山里」で開かれたおらが山里ネットワークフォーラムの様子。

「おらが山里」の住民グループ「おらが山里ネットワーク」の代表者は、27日、「おらが山里」の中心地である富士見町で、住民の声を聴く。参加者は約30人が参加。おらが山里の中心地である富士見町で、住民の声を聴く。参加者は約30人が参加。おらが山里の中心地である富士見町で、住民の声を聴く。参加者は約30人が参加。」

「おらが山里」の住民グループ「おらが山里ネットワーク」の代表者は、27日、「おらが山里」の中心地である富士見町で、住民の声を聴く。参加者は約30人が参加。おらが山里の中心地である富士見町で、住民の声を聴く。参加者は約30人が参加。おらが山里の中心地である富士見町で、住民の声を聴く。参加者は約30人が参加。」

土木学会コンサルタント委員会 第20回シンポジウム

「2007 四ツ谷キャリアアップフォーラム for 団塊アクティブシニア」

MEMO :



“団塊世代”を 照準に熱い議論

土木学会全国大会

—編集部

9月20日(水)より3日、立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて、土木学会平成18年度全国大会が開催された。台風等心配されていた天候にも恵まれ、研究討論を始め、多くの発表が行われた。また、学生達によるコンクリートカヌーの展示、琵琶湖での競技等(関西支部主催)も行われ、多様な賑わいを見せた。

研究討論会の一つでは、「技師から義士へ！ 退役土木技術者はボランティア・エンジニア」(藤田俊英座長：NPO法人ビーヴ、コンサルタント委員会委員・幹事)をテーマに発表が行われた。話題提供者は、角野昇八氏(大阪市立大学理事・副学長)、三宅雅子氏(作家)、須田日出男氏(NPO法人社会工学

研究所、本誌編集委員)、日下部治氏(東京工業大学教授、コンサルタント委員会委員長)。

角野氏は、現代大阪の基盤となった大和川掘削の話、江戸時代の付け換え工事について合意形成をからめて語った。

三宅氏は自著「掘るまいか」の執筆、撮影秘話を自身が集めた資料や写真を交えて話した。中山隧道は、雪により陸の孤島と化す山古志村の住民達が16年間かけて



つくった手掘のトンネル。三宅氏は中山隧道と偶然に出会い、突き動かされるように映像をつくりたいと思い、いろいろな人の協力によって映画をつくったという。掘削当時の様子を知る老人や、2004年の新潟中越地震により崩壊してしまった山古志村の原風景等、二度と撮影できないものをフィルムに残している。皆、息を呑むのも忘れて話に聞き入っていた。



この、大和川と中山隧道のプロセスと結果を、日下部氏は「正解ではなく成解」だと述べ、さまざまな要素を統合して、実現可能な解を見つけ出ししていくことが大切と訴えた。

そして須田氏は、いつの時代にも合意形成プロデュースが大切だという。合意形成プロデュースとは、「何らかの政策案件等に対して、利害関係者を特定し、同意に至るプロセス設計を行い、多数の利害関係者が同意できる案を検討・評価・提案すること」である。

また、藤田氏は中山隧道を団塊の世代と捉え直す。一線で活躍し、引退、そして土木遺産というソフトのかたちで影響を与えていると。研究討論会のタイトル、「技師から義士へ」の「義士」は「仮の(義手、義足)」という意味だそうだ。「団塊の世代がいつまでも現役の仕事をしてはいけない。これまでの経験をもとに利害を捨てて、支える仕事(ボランティア)を自発的に実行しよう」と訴えた。



